

令和3年第5回日光市教育委員会会議録

- 1 日 時 令和3年5月13日(木) 午後1時29分開会
- 2 場 所 日光市役所本庁舎2階202会議室
- 3 出席者 教育長 齋藤孝雄
出席委員 委員 高井孝美
委員 手塚美智雄
委員 池田由美子
委員 藤本亮純
- 4 説明員 教育次長 鈴木伊之
学校教育課長 和気一夫
生涯学習課長 佐藤育宏
文化財課長 福田昌浩
スポーツ振興課長 鶴見英明
国体推進課副参事 竹澤勢津夫
中央公民館長 鷹箸正
日光公民館長 常盤紀生
藤原公民館長 齊藤光伸
足尾公民館長 尾崎聡
栗山公民館長 小松正明
学校教育課副参事兼教育指導係長 鈴木久子
- 5 書記 学校教育課教育総務係長 湯澤智則
- 6 議 題
(1) 提出議案
議案第23号 日光市奨学金の貸付者について
議案第24号 大桑小学校・小百小学校の統廃合について
(2) 報告事項
①教育長からの報告
②事務局からの報告

ア 日光市学校運営協議会制度・日光市地域学校協働事業の導入に向けての基本的な考え方について

(3) 教育委員からの提案事項

(4) その他

①次会開催予定

日時：令和3年6月24日（木）午後3時00分

場所：日光市役所本庁舎3階大会議室

日時：令和3年7月21日（木）午後2時00分

場所：日光市役所東庁舎3階第4会議室

7 会議の概要

【教育長】

午後1時29分開会を宣言し、速水委員欠席の申出を報告した。

会議録の署名人に、池田・藤本両委員を選任した。

日程第一 前会会議録の承認

【教育長】

前会会議録を確認し承認を得た。また、会議の概要をホームページで公開することの確認を得た。

日程第二 審議事項

【教育長】

議案第23号 日光市奨学金の貸付者についてを議題とし、事務局の説明を求めた。

【学校教育課長】

【説明要旨】

「日光市奨学金の貸付者について」2名の申請があり、必要書類が提出され、要件も認定基準を満たしていることを説明した。

【教育長】

説明終了後、質疑を求めたが質疑はなく、委員各位の賛意確認後、議案第23号は、原案どおり承認した。

【教育長】

議案第24号 大桑小学校・小百小学校の統廃合についてを議題とし、事務局の説明を

求めた。

【学校教育課長】

【説明要旨】

「大桑小学校・小百小学校の統廃合について」令和4年4月1日の両校の統合にあたり、統合の方針と経過等について説明した。

【教育長】

説明終了後、質疑を求めた。

【委員】

豊岡中学校区として一緒に検討してきた轟小学校は、令和5年に統廃合の合意形成を見越して進めているということだが、1年違いというのは何かほかに大きな理由があるのか。

【学校教育課長】

どちらも地元の学校がなくなるとなると、最初からもろ手を挙げて賛成とはいかず、それぞれの地元検討会で話し合った結果、轟小学校のほうが少し時間を要したということで1年遅れとなっている。両校の検討会共に足並みを揃えて3校一緒にということを目指してはいたが、轟小学校のほうが当初は統廃合に反対という意見が強く、なかなか合意形成が図られる見込みが立たないなか、小百小学校が先行して昨年9月に令和4年4月に統廃合ということで一旦合意形成が図られた。その後、轟小学校が令和5年統合を目指すということになり、小百小学校においても改めて統廃合の時期を考え直したが、当初の予定どおり1年ずれるが、先行して統合という結果となった。

【教育長】

そのほか質疑を求めた。

【委員】

令和2年に統廃合した日光小、野口小、所野小については、現在特に問題は生じていないか。

【学校教育課長】

当該小学校3校の統合については、今年の頭に閉校となった旧野口小、旧所野小の児童、保護者からアンケートをとったところ、ほぼ統合してよかったという意見であり、友達が増えて学校が楽しいという意見が大多数を占めていたことから、統合について、東中学校区では問題はなかったと捉えている。

【教育長】

そのほか質疑を求めたが質疑はなく、委員各位の賛意確認後、議案第24号は、原案どおり承認した。

日程第三 報告事項

①教育長からの報告

【教育長】

【報告要旨】

各学校の様子等について

児童生徒の様子から

- ・全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査について
- ・各種大会等開催状況について
- ・市内小中学生の新型コロナウイルス感染について

教職員関係

- ・日光市人権教育推進教員について
- ・教育長による学校経営に係る訪問について

その他

- ・栃木県市町村教育委員会連合会令和3年度県への要望事項（案）について
- ・日光市杉並木大学校入学式について

【教育長】

報告終了後、質疑を求めたが質疑はなかった。

②事務局からの報告

【生涯学習課長】

【報告要旨】

・日光市学校運営協議会制度・日光市地域学校協働事業の導入に向けての基本的な考え方について、日光市における導入の方向性とスケジュールの概要について報告した。

【教育長】

報告終了後質疑を求めた。

【委員】

去年一昨年ぐらいから、コミュニティスクール構想ということが言われているが、ここに書いてある新組織への移行というのは、行政側の整備であって、これが地域全体に対し、これからどのように関わっていくのか。

【生涯学習課長】

学校運営協議会が設置された学校をコミュニティスクールと呼ぶものであることから、今回説明した流れでコミュニティスクールを進めていく。

【教育長】

そのほか質疑を求めたが、質疑はなかった。

日程第四 教育委員からの提案事項

【教育長】

教育委員からの提案事項について意見を求めた。

【委員】

今回の小学校のコロナ感染クラスターに関連することで、報告を待ってから質問しようと思っていたのだが、そのほうが良いか。

【教育長】

学校教育課長に説明を求めた。

【学校教育課長】

個別の陽性者等については、その都度委員に知らせているので、詳細については省き全体の総括的な説明としたい。

4月28日に端を発したクラスターについては、最終的に小学校の関係で計21名の陽性者となった。このうち、クラスターと呼ばれる学校内の感染については、教員が1名、職員が1名、児童が7名、計9名であり、これが栃木県ナンバー60と呼ばれているクラスターである。この感染者の家族接触者として9名、他の中学校の生徒が1名、また、他校の教職員が2名、これを合わせると21名の感染者が発生したことになる。今回のクラスターについては、5月5日に児童2名の陽性が出たものが最後である。4月29日から昨日まで学校を臨時休業しており、5日からではもう既に10日近く、最初の発生日からは2週間経っているので、このあと仮に同じ学校で陽性者が出たとしても、今回の案件とは別案件と捉えられるので、今回のクラスターについては終息したものと判断している。

今後の対応について、これまで学校内で行ってきた検温等の健康観察、マスクの着用、手洗いの励行及び学校内の消毒や換気の徹底、密を避けるといったような対策について、これまで以上に徹底するように依頼していきたい。今回結果としてクラスターとなってしまったが、このような対応をしてきたおかげで、この規模で済んだとも考えられるので、今後も対策を徹底して進めていきたい。

【教育長】

そのほか意見を求めた。

【委員】

個人的な感想として思ったのだが、ワクチン接種の優先順位が今のところ高齢者からということで、国で決められたガイドラインに沿ってワクチン接種が優先されるのかと思っていたが、最近の報道等を見ると、自治体により手法もいろいろ融通が利くようだ。今回の小学校の件をみても、子供たちはワクチンを受けられないので、そうした子供達に接する大人である、教職員や学校関係者が優先的に接種を受けられるような枠組みを、まだ今からなら間に合うので、日光市独自の手法としてももう少し議論して進めたほうが良いのではないかと思う。多分、高齢者が優先という考えは重症化しやすいという理由だと思うのだが、新しい変異体のウイルスは、高齢者ではなくても重症化の例がみられるようになっているので、子供たちの命を守るためにも、そういった場に出る先生や、市役所など市民に直接接する職員のように、今動いて働かなくてはならない人たちのことをもう少し考えないと、また同じようなことが起こるのではないかと危惧している。日光市として独自の優先枠ができないかどうかというのを、皆で考えてもらいたいと思う。多分、受けたくないなど事情のある者もあるかと思うが、できれば子供たちに接する機会のある大人にももう少し優先的に対応できるよう、日光市の教育委員会として要望を出せればと思う。

【学校教育課長】

委員提案の中で、市の職員を含め子供に接する者ということであったが、教育委員会事務局の立場で学校教職員に限った話として、今回ワクチン接種推進室に問い合わせをしたところ、実はワクチン接種推進室でも検討は前々からしていたということであった。先ほど委員が言ったとおり、市町によっては独自の優先枠を設けているものも確かにあるが、これが国の方針に沿うかという点と難しく、キャンセルで余ったワクチンの有効活用として、それを教職員のほうに回せるかどうか、推進室のほうで県を通じて国に確認したが、国としては認められないという回答であり、5月に入って再度確認したところ、やはり難しいという回答であったそうなので、公式には難しいことなのだと思う。ただ、今後対応が変わってくる可能性もあるので、引き続き検討を要望し、教育委員会事務局としても対応していきたいと考えている。

【教育長】

そのほか意見を求めたが、意見はなかった。

日程第五 その他

【学校教育課副参事】

【報告要旨】

・前会委員より質問のあった、今年度の市内小中学校の特別支援学級の種別と担任教師の年代と採用種別、在籍児童生徒数等について報告した。

【委員】

忙しいところまとめてもらい感謝する。やはり教員が高齢化しているということが分かった。大学の教職員の授業のなかで、昔はなかった特別支援学級実習を多く取り入れる学校が出てきていると聞いており、逆に新卒の教師のほうが経験もあり、もしかすると希望者も増えていくのではないかと思う。校長もこうした現状をみたうえで、できるだけ若い教員に経験を積ませるよう配慮してほしい。

自分も特別支援学級の担任を経験した。やはり保護者にしてみると特別な配慮が必要な子供であり、中学校を卒業した後のことを心配する方が多い。すると、日常生活の中の支援なども含めて授業を組み立てていかなければならないため、臨採のように半年や1年がかわってしまうよりも、続けて担任をしてもらえるほうが保護者も心強いと思うので、できるだけそうした配慮を、若手の育成も含めて現場の教員にお願いできればと思う。

【教育長】

貴重な意見感謝する。県の採用枠には特別支援学級担任という特別枠での採用があるので、こうした教員も今は何人か入っている。概ね10年程度は特別支援学級を担当するという形で採用されており、本市にも何名かいるので、そういった教員を確認し、若手を育てていくということも考えられると思う。

【教育長】

次会の会議は、令和3年6月24日（木）、午後3時00分から日光市役所本庁舎3階

大会議室、7月の会議は令和3年7月21日(水)、午後2時00分から日光市役所東庁舎3階第4会議室で行うことを確認した。

午後2時09分閉会